

《基本目標》 地域力・市民力を活かした誰もが安心して暮らせるまち

数値目標

- (1) 別紙 資料5の一覧を参照
- (2)

現状と課題

- 持ち家比率並びに世帯当たりの住宅面積が政令市の中で1位という状況や、都市と自然・田園が共存する恵まれた環境を活かして、UIターン、子育て世代、二地域居住など多様なニーズに応えられるまちづくりを進める必要があります。
- 自主防災組織の高い結成率など、地域力を活かした自主的な活動が進んでおり、安心安全なまちづくりに取り組むためにも、引き続き地域コミュニティ協議会などの活動の活性化を促進していく必要があります。
- 市民の移動における自動車の利用割合は約70%と、マイカー利用による暮らしが主体となっています。通勤・通学への対応や、高齢化の進展を見据え、マイカー利用だけでなく公共交通でも快適に移動できるまちづくりを進める必要があります。
- 市民の平均寿命は全国平均を上回っていますが、健康寿命は全国平均を下回っています。若い時期から楽しんで健康活動が行えるまちづくりを進める必要があります。
- 市民が住み続けたいと思うまちを目指すとともに、市外から多く訪れる交流人口の拡大に向け、地域の持つ歴史・文化を活かした魅力づくりや、まちなかの活性化・再生をより一層進める必要があります。

《基本的方向》

体系

- まちなか・田園集落など、新潟独自の魅力を活かした多様なライフスタイルにあわせた暮らしが選択できる環境をつくります。
- 多世代が集い交流できる場の確保や、地域の中での支え合い助け合いを進め、誰もが心豊かに生活できる環境をつくります。
- 多核連携型の都市構造を支える公共交通の強化など、交通ネットワークの形成とその活用とあわせて、マイカーとのバランスのとれた利用を促し、住みやすい環境をつくります。
- 健幸都市づくり(スマートウエルネスシティ)を推進し、新潟の四季の豊かさや歴史・文化を感じながら、健康で楽しい長寿生活を過ごせる環境をつくります。
- 開港5港の一つであるみなとまちとして、また、地域それぞれが持つ歴史・文化が感じられるまちの魅力づくりや、新潟の顔である都心の再生を進め、人々が集い交流が生まれる環境をつくります。

(ア)

(イ)

(ウ)

《具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)》

(ア) 地域資源を活用し、多様な生活環境を選択できる暮らし

① 多様なライフスタイルに対応した暮らしの提案

大都市ならではのサービスや利便性と田園・自然の豊かさが共存する本市の魅力を活かし、UIターン、子育て世代、二地域居住などのニーズに対応した住環境の整備や空き家の活用など、多様な暮らし方の情報発信を通じて、首都圏等からの移住に繋がります。

重要業績評価指標(KPI)： 移住相談件数 5年間で●件
空き家活用件数 5年間で450件

- (具体的な取組)
- ・移住促進モデル地区の整備支援
 - ・空き家の活用, 空き家リフォーム助成
 - ・新潟市版CCRCの検討

② 市民生活での安心・安全の確保

地域のコミュニティ力を活かし、災害に強い基盤整備とあわせて地域防災力の強化や、市民の自発的な支え合い活動や地域づくりの担い手として活躍できる仕組みづくりを進め、市民の多様化・複雑化するニーズにきめ細やかに対応できる環境を整備します。

重要業績評価指標(KPI)： コミュニティ協議会の認知度 ●%(平成30年度)
1校当たりの学校支援ボランティア数 現状1,280人/校以上
地域による放課後児童クラブ(ひまわりクラブ)運営数 拡大(平成31年度)
元気力アップ・サポーター登録者数 3,000人(平成31年度)
地域の茶の間設置箇所数 537か所(平成31年度)

- (具体的な取組)
- ・自主防災組織の活動支援
 - ・地域コミュニティ活動の活性化
 - ・地域と学校パートナーシップ事業
 - ・放課後児童クラブと地域との連携事業
 - ・障がい者への求職相談から就職後の定着までの一貫した支援
 - ・多世代交流の推進

(イ) 新バスシステムにより、マイカーだけに頼らない持続可能な公共交通のある暮らし

① 快適に移動できるまちづくり

新たな交通システム(BRT)と、区バス・住民バスを含めたバス路線の再編を一体的に行う新バスシステム構築に向けた環境整備を進めます。また、高齢になって車を手放しても安心して外出できるよう支援を強化します。

重要業績評価指標(KPI): 移動手段におけるバスの利用率 現状2,8%以上(平成31年度)
高齢者加害交通事故件数 ●%減少(平成31年度)

(具体的な取組)

- ・新たな交通システム(BRT)の推進
- ・区バス, 住民バスの強化
- ・高齢者の運転免許証返納サポート事業

② 持続可能な都市づくり

個性ある8つの区による、田園に包まれた多核連携型都市を維持するため、都市機能の誘導や、バス、鉄道、タクシーなどの環境整備・利用促進により、新潟らしいコンパクトなまちづくりを進めます。また、歩道の段差解消など、まちのバリアフリー化を進めます。

重要業績評価指標(KPI): 移動手段におけるバスの利用率 現状2,8%以上(平成31年度)

(具体的な取組)

- ・都市機能誘導施策の推進
- ・公共交通の利用促進事業
- ・自転車の利用促進事業

③ 健幸都市づくり(スマートウェルネスシティ)の推進

公共交通や徒歩・自転車で出かけやすい環境整備とあわせて、りゅーとカード(バスICカード)によるイベント参加へのポイント付与や、ICT技術の活用などをにより、楽しんで健康づくりが行える取り組みを進めます。

重要業績評価指標(KPI): 1日60分くらい体を動かす生活を実践している者の割合
男女共40%以上(平成30年度)

(具体的な取組)

- ・健康マイレージ, にいが未来ポイントによる健康活動への参加促進
- ・りゅーとカードの多面的活用

(ウ) みなとまちの歴史や文化など、魅力的なまちなかを感じられる暮らし

① 地域の個性、歴史、文化に根ざしたまちづくり

みなとまちや花街の歴史・文化を活かした都市の魅力づくりや、外国人を含め誰にとっても分かりやすい情報提供などにより、交流人口の拡大を図るとともに、住んでみたくなるまちづくりを進めます。

重要業績評価指標(KPI): 外国人述べ宿泊者数 5年間で30%増

- (具体的な取組)
- ・地域の歴史・文化を活かした景観のルールづくり
 - ・花街文化を活かした街並み整備
 - ・まち歩き情報案内板の設置

② まちなか再生の推進

新潟駅前・万代・古町の都心軸を連動させた都市機能の向上による中心市街地の再構築や、堀割や花街など湊町としての歴史・文化を活かした景観づくりに取り組み、都心の再生を図ります。

重要業績評価指標(KPI): 榎谷小路における歩行者通行量 35,000人/日(平成31年度)
古町地区での空き店舗数 ●件減少(平成31年度)

- (具体的な取組)
- ・新潟駅周辺地区の整備
 - ・都心軸・萬代橋周辺エリアの賑わいづくり